

安全と環境を考えるニシオの広報誌

安全くん

2005

Vol-6

78



それ行け!! 安全くん

「ハナマル工務店の看板男、看板を付け替える」の巻

- 解説コーナー
「高所作業車 作業前のチェックポイント」
「高所作業車 路上作業での危険（事例）」
「秋の火災予防運動 11月9日～15日」
- 世の中 見たトコ勝負 VOL.18
「『ちょいモテ』願望の不惑男性」
- NISHIO TOPICS
RA札幌営業所オープン!
- お知らせ・情報コーナー
「非常持ち出し袋」を考える ～我が家流の非常用グッズを!～



表紙写真：
興福寺
(奈良県)

インターネットホームページ
「安全くんネット」もご覧ください。

<http://www.anzenkun.nishio-rent.co.jp/>

〈この広報誌は、再生紙を使用しています。〉

それ行け!! 安全くん

画 中村よしのぶ

連載 その78

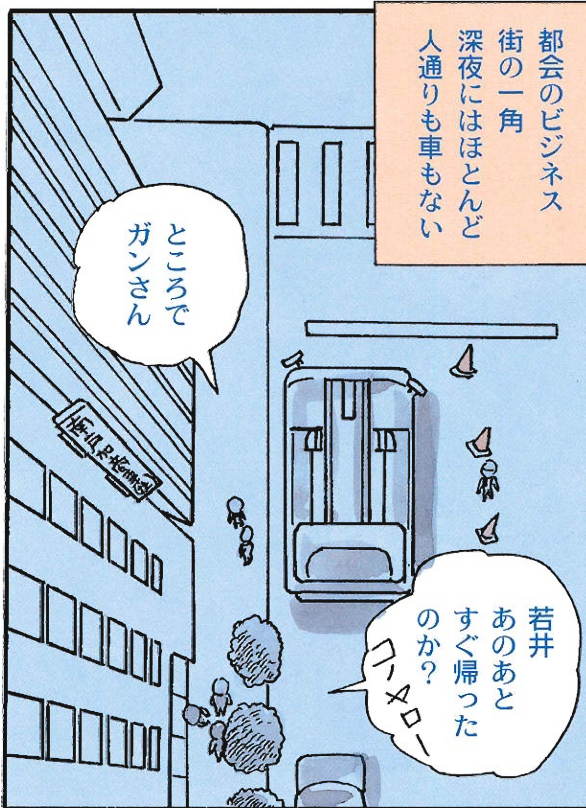
「ハナマル工務店の看板男、 看板を付け替える」の巻

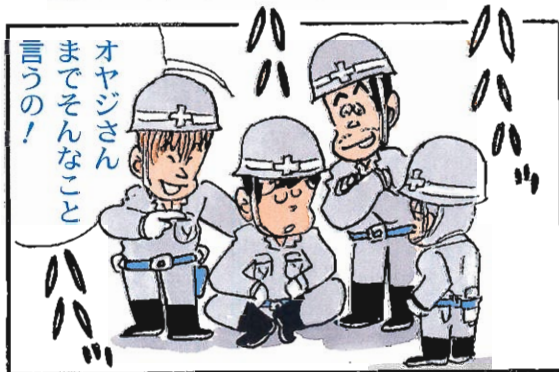


Info
motion

表紙の写真

ユネスコ世界文化遺産 日本 建造物 第13回 古都奈良の文化遺産 興福寺 五重塔他 藤原氏の氏寺として669年京都に建てられた山階寺が起源で、平城京への遷都の際、現在の場所に移り興福寺となる。1180年、平重衡による焼き討ちで堂塔はほぼ全焼したが、鎌倉・室町時代に復興され、三重塔、五重塔、北円堂、南円堂、東金堂などの国宝級の建造物が現存している。なお、五重塔は約50mと国内第2位の高さを誇っている。





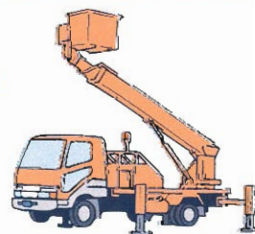
解説コーナー

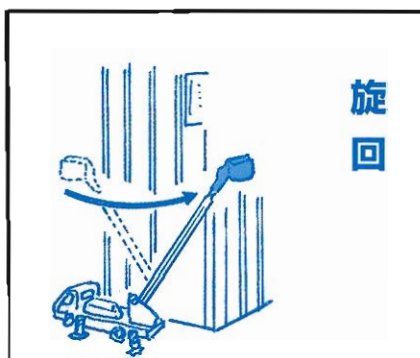
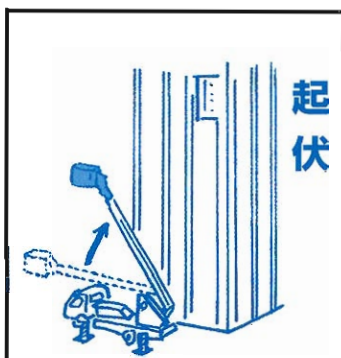
高所作業車 作業前のチェックポイント

(機種選定と作業計画策定のために)

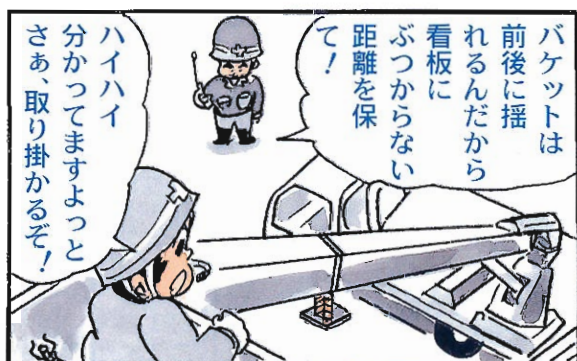
トラックタイプの高所作業車を使って作業する前に調査・確認をせずにトラブル発生となるケースが多いようです。適正な機種で安全な作業を行ってください。

- ①目標物の確認 (施工する場所の高さ) …最大作業床高さ&作業範囲図のチェック
=実際の作業現場の状況を確認し、高さに余裕をもって選ぶこと。
- ②障害物の確認 (作業車の活動範囲) …ブームの形状と作業範囲図のチェック
=上空の障害物 (架空線・看板・街路灯・樹木・土塀などの確認)。
- ③作業場所の確認 (アウトリガーの完全張出) …作業範囲図・アウトリガー張出寸法のチェック
=張出し幅が充分に取れない条件では作業範囲が制限されます。
- ④地表面の確認 (地盤の状況の確認)
=段差・傾斜・凸凹・軟弱地など、地表面の確認を! (地盤が崩れて転倒しないように)
- ⑤積載物の確認 (作業道具・材料の重さは?) …積載荷重と作業床寸法のチェック
=定員と積載重量の確認。定格荷重をオーバーすると、安全装置が働き動作を停止または規制がかかります。
- ⑥作業者の確認 (有資格者を選ぶこと) …最大作業床高さ&資格証の確認
=10m未満の機種は「特別教育」、越えると「技能講習」修了者でないと運転操作できません。
- ⑦走行路の確認 (車輛の運送経路のチェック) …機体寸法 (輸送時の最大高さ) のチェック
=極端に低いガードや門扉のチェックを! 鉄道や道路のガードに注意





看板の下部にバケットをつけようとしてブームの起伏、旋回、伸縮を繰り返すが、なかなか位置が決められない。少々焦り気味。



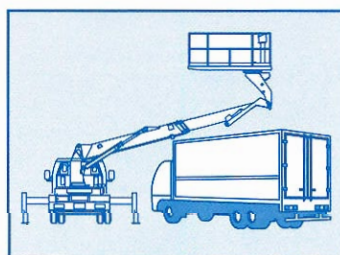
解説コーナー

高所作業車 路上作業での危険 ～〔事例〕～

(1) 道路をまたぐように高所作業車のブームを伸ばして作業

路上駐車にじゃまされて、やむを得ず道路上を跨ぐようにブームを伸ばして作業を行い、そこへ通過しようとしたトラックの荷台上部がブームに接触し、その反動でバケット内の作業者がバケットから転落した。

- 駐車中の車を排除し、一般車の道路を確保して作業を行う。
- やむを得ず道路を跨いで作業を行う場合は、①一般車の通行に際し高所作業車のブームを旋回退避させてから通過させる、②誘導員は、一般車に対し交互通行の指示、一旦停止や徐行などの合図を確実に行う。
- 高所作業車の作業床上で作業する場合は、必ず安全帯を使用する。



(2) 塀際に高所作業車を寄せて作業

狭い道路での作業なので、アウトリガーも塀いっぱい寄せて作業していたが、次の作業箇所へ移動するため、作業者が車体側面の操作レバーを操作してアウトリガーを格納しようとし、誤って塀側アウトリガーの2本のみを下げてしまったため、高所作業車が塀側に傾き、作業者が車体と塀の間にはさまれた。

- アウトリガーの正しい操作方法等について事前に安全教育を行う。
- 安全に操作できる広さを確保する等の適正な作業計画を事前に作成し、作業者に徹底する。
- 危険が予測される作業には作業指揮者を配置し、作業計画に基づき周囲の状況を確認して作業を行う。

※公道上での高所作業をするには、事前に所轄警察署の道路使用許可が必要です。

ガンさんのワンポイントレッスン

『高所作業車の「作業計画」のポイント』

(労働安全衛生規則 194条の9より)

事業者は、高所作業車を用いて作業する場合、あらかじめ状況に応じた作業計画を定め、これに従って作業を行わなければならない。

A. 作業計画の策定時に把握しておかなければならない事項

1. 作業に関わる場所の状況＝地面の傾斜、地盤の軟弱、作業場所の広さ、電線等障害物の有無など
2. 高所作業車の種類および能力＝災害防止上からみたもので、作業床の高さ、作業範囲、積載荷重など
3. 同一場所で行われている他の作業の実施状況、作業時期＝他職との共同作業、使用場所の取り決め、その他災害防止上必要となる事項など

B. 作業計画に示さねばならない事項

作業方法（Aの項目にあった内容で具体的に示すこと）作業場内での走行移動の方法、アウトリガーの張り出し等車体の支持方法、周囲の障害物を回避する作業床の移動方法、作業時期など

C. 作業計画の周知徹底

作業方法（前掲のB項目）を運転者、共同作業者などの関係労働者に周知すること。作業開始前、当日の変更事項など作業指揮者を通じて周知させる。

D. 作業指揮者（同、194条の10）

一台に数名が乗ったり、数台の機械を入れて作業する場合に作業者間の連絡不十分などによる災害が発生し、感電事故もよくみられることから、高所作業車を用いて作業を行う場合には、作業指揮者を任命し、作業計画に基づいて指揮を取らせる義務がある。（作業計画を適正に履行する限度において、自ら作業に従事することは差し支えない。）



SAFETY CHECK

セーフティ
チェック

トラック式高所作業車の安全

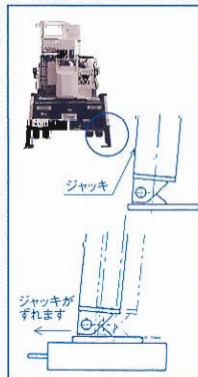
トラック式高所作業車の安全作業のポイントの一つに「アウトリガーの正しい設置」があります。

■ジャッキベースは何故必要か？

ジャッキベースには、地盤を安定させる以外にも、地面の破損を防止する役目があります。A型ジャッキ（右図）の場合、ジャッキが外側へ張り出す構造のため接地面が地面に強く擦れ路面を傷つける恐れがあります。ジャッキベースを敷くことでこれを防止できる訳です。またジャッキベースにより接地面が広がることで、接地圧を小さくし不同沈下を防ぎます。堅牢な地面の上でもジャッキベースは必ず使用してください。

■トラブルシューティング

- | | | |
|-----------------------|---------------|--------------------------|
| ①アウトリガーが張り出さない。 | PTOは入っているか？ | PTOをONに！ |
| ②アウトリガーが張れたがブームが動かない | ジャッキは接地しているか？ | ジャッキを張り直す
タイヤは地面から離す。 |
| ③ブーム格納後、アウトリガーが格納できない | ブーム格納位置は正しいか？ | 正規の位置に格納 |
| | ブームが伸びていないか？ | ブームを全縮、格納。 |





解説 コーナー

秋の火災予防運動 ～11月9日～15日～

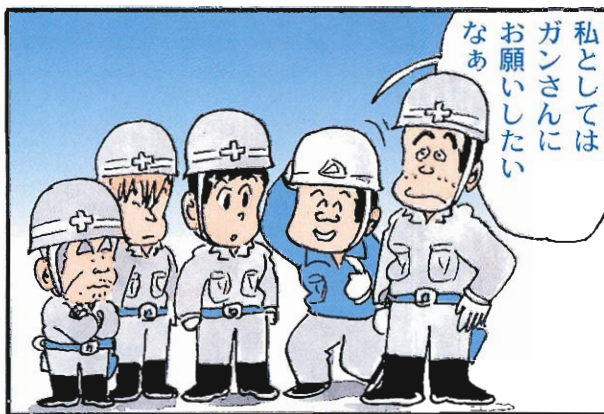
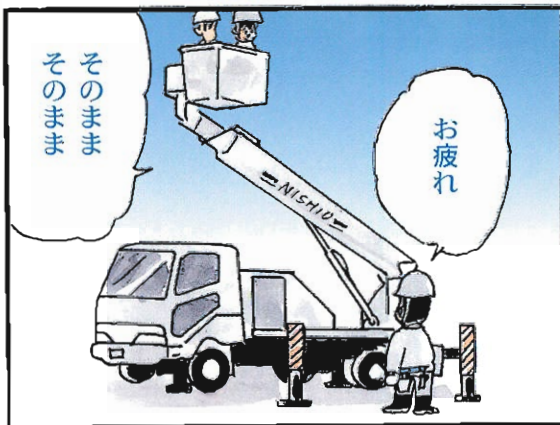
—平成17年度全国統一防火標語— 『あなたです 火のあるくらしの 見はり役』

乾燥注意報がよく出される季節になってきました。また、これから冬に向かって現場での防火に注意が必要になってきます。

さて、全国的に実施される秋の火災予防運動についてご紹介します。この運動の起源は、1871年10月8日に起こったシカゴ大火を契機に、アメリカで実施された「火災予防運動」にあるようですが、日本でも昭和2年3月7日に発生した「北丹後地震」による家屋の破壊・焼失で、死者と行方不明者を合わせて2,500人以上という大きな被害をもたらしたことが契機になり、昭和5年に「防火デー」の名称で近畿地方で実施されたのが始まりといわれています。

戦後、昭和22年に全国一斉の火災予防運動が実施され、昭和26年には春を3月1日から7日（消防記念日）までの一週間、秋を11月26日から一週間と期間を定め、名称も昭和28年から「全国火災予防運動」となりました。平成元（1989）年には、「119番の日」にちなんで秋季を11月9日からの1週間と期間の見直しを行い、現在も、消防庁から示される「全国火災予防運動実施要綱」に基づき、各自治体がそれぞれの地域性を出しながら実施しています。

火災時の被害・災害を未然に防止するには、私たち一人ひとりが日頃から防災の重要性を十分に自覚し、自主的な防火安全活動を積極的に実施することが何よりも大切なことです。この「全国火災予防運動」の期間中に改めて周りを見直し、防火・防災活動について考えるとともに、生活の中で習慣づけてみてはいかがでしょうか。（参考：千葉県船橋市消防局ホームページ）



SAFETY CHECK セーフティチェック 電動工具のトラブル防止 ~インパクトレンチ編~

インパクトレンチは、様々な作業に使用されるポピュラーな工具だけに、安易に使用されるケースが多いようです。使用前の点検と合わせてトラブル防止のポイントをみてみましょう。

■電源トラブルの防止

電動工具は適正な電源を確保しないと電圧が低下し、締め付けトルクも小さくなります。電源コードが長すぎたり、電工ドラムを使用すると電圧降下を招きます。延長する長さにより線径を選択するか昇圧器を使用し、電圧降下によるトラブルを防止しましょう。また電圧が高い場合は、回転数が過多になり正しいトルクでの締め付けが困難になります。使用電源は事前に確認を!

■使用上の注意

本体は、両手で確実に保持してください。ボルトに対して本体を真っ直ぐなるようにして押し付けのがコツです。脚立や足場上で作業をする場合は、締め付けの際、反力によりバランスを崩し転落する恐れがあるので注意しましょう。ソケットは、長年使用し六角部や四角部が磨耗してガタが大きくなると、締め付けトルクが低下するので交換してください。

※ 100V、単 200V の機種があります。事前に電源を確認しておきましょう。



